

資料

中国・新疆ウイグル族の祈りと婚礼に関する服飾 － 2004年度 ハミ地区における調査より －

岩崎 雅美*・村田 仁代**

原稿受付平成17年4月9日；原稿受理平成18年1月12日

Prayer and wedding costumes in the Xinjiang Uygur Autonomous Region, China － Research on the Hami District in 2004 －

Masami Iwasaki・Masayo Murata

Summary

This report is one in a series of investigative studies that we have been conducting until now about Uygur peoples' costume and clothing customs in different areas of China, Xinjiang Uygur Autonomous Region.

This time we set the Hami District, which is located in the eastern end of the autonomous region, as an investigative area. It is generally said mostly to take on the influence of the Han race. We visited Hami to investigate from September 8 to 15, 2004.

In our investigation, we principally conducted oral interviews and observation in house visits, and made photographic records.

We report about the following contents of our investigation about which we have formed a viewpoint.

- 1) Preparations for, and appearances of, prayer of Muslim Uygur women; everyday clothes of Aggi who had visited Mecca; Muslim expressions in modern clothing.
- 2) Bridal costumes in wedding ceremonies; marriage presents; circumstances of wedding ceremonies.
- 3) Wearing of ixtan (trousers), makeup and accessories, pierced earrings and short hair of children; the influence of the Han-race culture in Hami.

(Received April 9, 2005 ; Accepted in revised form January 12, 2006)

1. はじめに

これまで中国・新疆ウイグル自治区の各地における調査研究の報告^{1)~11)}を行っているが、今回のハミ (Hami 哈密) 地区は、ウイグル族の間では「クムル Kumul」と呼ばれている地域で、新疆ウイグル自治区の東端に位置している。ハミは一般に最も漢族の影響を受けている地区と言われているが、果たしてそのような実態が現在の調査からも伺えるのか、また服飾や衣生活面はどのよ

うな状況にあるのか興味を持たれる地域である。

2. 調査地域

平成16 (2004) 年9月8日～15日に、ウルムチから東に600km、寝台列車で9時間というハミ地区を訪問した。ハミは「ハミメロン」「ハミ瓜」の産地と思われているが、メロンの産地はハミより少し西でトルファン盆地の東部に位置するピチャンである。しかしトルファンの人々はハミにも移り住んでいるといわれ、トルファンに近い文化圏と考えられる。もとよりハミでもメロンや葡萄などの果物の栽培は行われ、訪問農家の女性の話によると、日本のジャム会社が進出しているという。小麦は2回の収穫が可能で平野部では夏に、山岳部では秋に収穫される。農作物は他にトウモロコシがある。

*奈良女子大学

Nara Women's University

**大阪樟蔭女子大学

Osaka Shoin Women's University

ハミ地区の全人口は496,739人で、その中心はハミ市である。ハミ市の人口は375,368人で、民族別では漢族が261,494人（69.7%）で最も多く、ウイグル族86,652人（23.1%）、回族13,789人（3.7%）、ハサク族10,025人（2.7%）、その他3408人（0.9%）となっている¹²⁾。訪問した印象では小規模の都市という雰囲気である。

年間平均降水量は34.8mmしかなく、非常に乾燥している地域である¹³⁾。2004年には2回雨が降ったという程度である。1年で最も寒い1月の平均気温は-12.2℃で雪が4回くらい降り、15~50cmくらい積もる。冬の生活はもっぱら家畜の世話をして過ごすという。一方、7月の平均気温は27.2℃であるが、1日の寒暖の差が大きく夏でも夜になると冷えてくる。

3. 調査方法

調査方法は民家訪問による聞き取りや観察、写真撮影による記録である。訪問数はウルムチ市で2軒（公務員宿舎）、ハミ市では7軒（公務員宿舎2、民家5）、合計9軒である。公務員宿舎は集合住宅、民家は葡萄栽培を中心とした農家で1戸建てである。

4. 調査結果

服飾や衣生活に関連した調査の結果、1）イスラムの祈りの場面とアジの服装からみた宗教と服飾表現 2）婚礼に関する服装と状況 3）その他についてまとめた。

1）イスラムの祈りの場面とアジの服装からみた宗教と服飾表現

（1）祈りの準備と身繕い

祈りはウイグル語で「ナマズ」と称し、男性はイスラム寺院のモスクに詣でて祈るが、女性はそれが許されていないために自宅で祈るのが一般的である。もとより祈りの場面は外国人や異教徒の前で公開されるものではないが、今回特に調査に協力して下さったAさん（54歳）は元公務員で、イスラム教に比較的緩やかな意識を持っていたことや、我々の調査が生活調査であることに対する理解により実現した。Aさんの場合は夏は忙しいので1日に朝1回祈るが、冬は時間があるので5回祈る。祈りに入る前の準備として体を洗うことから始める。まず便所で身体の排泄部を洗い、庭に戻って手を3回洗う。靴下を脱ぎ水洗いの準備をする（図1）。このときスカートの下にズボン形の下着を着けておく必要がある。手、前腕、口、歯をすすいでいく（図2）。鼻をかみ、再び口をすすぐ（図3）。手を洗い顔を洗う（図4）。



図1 便所で身体の排泄部を洗い、手を3回洗う（左）。靴下を脱ぐ（右）。（ハミ 2004）。

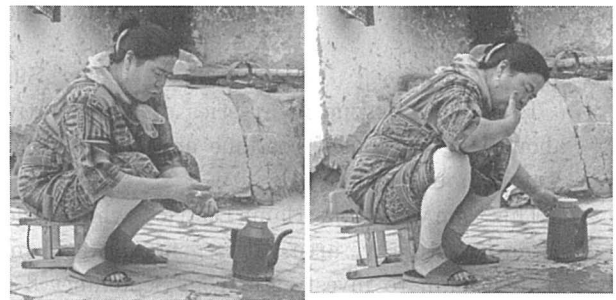


図2 手を洗い（左）、口・歯をすすぐ（右）。（ハミ 2004）。

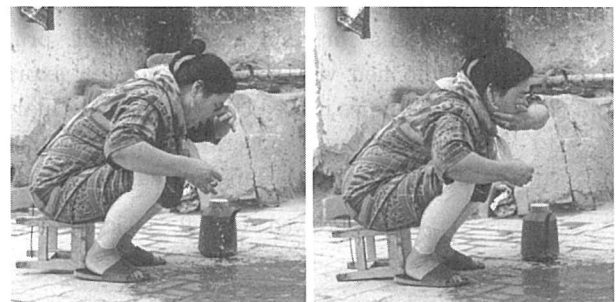


図3 鼻をかみ（左）、口をすすぐ（右）。（ハミ 2004）。



図4 手・前腕（左）、顔を洗う（右）。（ハミ 2004）

髪をなでつけ、最後に足を洗って終わる(図5)。



図5 髪をなでつける(左), 足を洗う(右)。(ハミ 2004)。

ここでは小さな如雨露を用いているが、少量の水を用いてきれいに洗っていく作法が整っている。少ない水量で合理的に洗っているが、我々には清めるという印象を与える。

足を洗うのに靴下を脱ぐが、その様子からスカートの下にタイツ風な下着、ズボン式の下着を着用しておくことが必需である。ストッキングでは足先が出せないのて具合が悪い。ウイグル女性が「シタン」と称するズボン式下着をスカートと共に着用する理由の一つがこの祈りの準備の過程にあると考えられる。

体の水洗いが終ると身繕いをする。大きなスカーフで頬被りに被る。衣服は長袖で裾丈の長いワンピースを着用する。たくし上げた袖を延ばし、衿などをきれいに整える。メッカの方向に一人分の祈り用の絨毯を敷き、立ったり座ったり寝るような動作をしながら3分間ほど祈りを唱える(図6)。



図6 大判のスカーフを深く頬被りに被る(左上)。一人用の絨毯をメッカの方向に敷いて祈る(左下, 右)。(ハミ 2004)。

短い丈の服を着替えない場合は前明きの大きなガウンを羽織り、すっぽり体を包むこともある。まさに後述の『コーラン』に述べられている「衣を頭から纏う者」の長衣のイメージを持つ衣服である。とにかく顔と手先以外は全て隠す身繕いで、2003年度の調査でイーニンの子供が見せてくれた様子と同じである(図7)。ナマズを始める年齢は女子で7歳、男子で9歳くらいで、親の仕草をまねることで覚えていく。



図7 祈りの身繕い(左・中央ハミ2004, 右イーニン2003)。

(2) アジの服装

イスラム教ではラマザン(ラマダン)と称して1年の内の1ヶ月ほど、太陽の出ている時間帯のみ断食を行う行事がある。その2ヶ月10日後にムスリムにとって最大の宗教行事で神に羊(カバブ)を捧げるという意味のクルバンの祭りが3日間行われる。イスラム教は太陰暦のために祭りの日程は年ごとに変わるが、2004年のラマザンは10月15日～11月15日、クルバンの祭りは2005年1月25日～27日であった。クルバンの祭りの際には、サウジアラビアのメッカに世界中からムスリムの参拝者が訪れる。中国で無宗教が条件とされる公務員であったウイグル人も、定年退職を契機にイスラムに帰依する生活に戻る者も多い。

「アジ」とはクルバンの祭りの時にメッカに詣でた人のことで、現在もウイグル族の間で憧れの存在になっている。アジになるには基本的に以下のような条件がある。
①裕福になり人生に余裕がある人 ②年齢は45歳以上
③子どもが全て結婚していること。

メッカに詣でるには普通北京、パキスタン、ロシアなどからツアーが組まれ、クルバンの前日を加えた4日間と、その後1～2ヶ月の間は各地を観光することが多い。そのようなことからまず経済的に裕福であることが第一である。一般に男性の方がアジになる人が多いがもちろん

女性のアジもいる。医師（公務員）が同行するので高齢になっても安心である。アラーの聖地、神の故郷に詣でたことで元気になったという人が多いが、逆にきつい旅行のために途中で亡くなる人も出てくる。そのときはメッカ詣でにより亡くなったとってあきらめる。また病気の人は代理を立てて詣でることも可能であるなど、実際は緩やかなルールである。

ハミでは男性のアジ2名に会った。Bさん（69歳）（図8・左）は元公務員で2003年、68歳の時にアジになった。アラーの生まれた故郷に詣でたので元気になったと話し、インタビューのときは普段着であった。穏やかな余裕を持った老人という印象を受けた。もう一人のCさん（67歳）は、元踊り手という方で2002年の65歳の時にアジになっている。このアジは灰色のロングコートを着ていたが（図8・右）、我々に会うと別の白のロングコートに着替え、帽子も白いレース編みに取り替えていた。



図8 男性のアジ（ハミ2004）。

男性のアジは公的な行事の場では必ずロングコートを着用する。Cさんは元踊り手というだけあって服装に細やかな神経を使い、身のこなしも軽快であった。Cさんの夫人のMさんはこの地域最初の女医（60歳）である。興味深いカップルなのでその結びつきを聞くと、親が決めた結婚であったという。夫人に最も苦労だったことを質問すると、自分の子どもが1歳の時に遠くで急患があり、子どもを連れて診察に出かけなければならなかったと話してくれた。ウイグル女性は女性医師に診てもらいたいの、村に一人しかいない女医は忙しい。車も十分普及していない時代には、まさに自己犠牲的な労働で社会に貢献している。

ハミの女性のアジSさん（73歳）は一見して裕福そうで、モノクロのアトラスのワンピースの上に黒のジャケッ

トを羽織っていた（図9）。



図9 女性のアジの服装（ハミ2004）。

堂々として立派な雰囲気ただよっている。頭部を見せてもらおうと、艶のあるきれいな黒髪を二本の三つ編みにし、それを更に一つにまとめていた。その上に青のビロード地に金糸やスパンコールで刺繍をした立派な Doppa を被っている（図10）。最後に帽子の上から白地の大判スカーフを深く頬被りにしている（図11）。帽子の上からスカーフを被るので頭の形が少し大きくなり、形も整っている。



図10 アジの帽子と髪型（ハミ2004）。



図11 アジの身繕い（帽子の上からスカーフを被る）。（ハミ2004）。

このアジは4人姉妹の長女であるが、姉妹たちは皆近所に住み様々に助け合いながら密な交流を行っている。やはり長女のアジは妹たちから尊敬されている。ハミ辺りの平均寿命は65~70歳といわれるが、この女性アジは長命である。

ハミではこのように他地域では減少している帽子がアジを通して使用されている。以前出会ったウルムチ市の高級マンションに住むアジ(図12)は、40代前半の若い女性のアジであった。服装には特に気をつけているということであったが、帽子は被らずスカーフと長いワンピースの服装であった。いずれのアジも自信や誇りが満ち、一種の風格を備えている。



図12 高級マンションに住む女性アジ(ウルムチ2002)。

イスラムの僧侶にあたる伝道者はアホンと呼ばれる。子供が生まれて7日目に命名するときや結婚式の朝など、人生の通過儀礼の時にアホンを自宅に招き祈ってもらう。

2) 婚礼の服装

(1) 花嫁の服装と状況

ハミ市南郊外で行われた結婚式に出席する機会を得た。花嫁の家では朝、7時にアホンを招き、お祈りをする。10時、花嫁、花婿それぞれの家でお祝いの宴が始まる。午後、花婿側の迎えが来る。花嫁には親しい友人と花嫁に種々のことを教える中年女性が同行する。我々は100元のお祝いをもって10時前に訪問した。玄関ではプロの料理人が大きな鍋にポロを作っていた。女性客と男性客が分けられて宴会が行われる。花嫁の母親はシフォンベルベットのワンピースで装っていた(図13 上中央)。客がコの字型に並んで座ると、お盆にナン、ケーキ、果物をのせて一人ずつ配られる。続いてポロの上にシシカバブをのせたプロのポロ料理が供される。給仕は花嫁の父親の職場の同僚だという。花嫁のいない宴席でお祝いに訪れた女性客らは世間話をして愉しく過ごす(図13 下)。



図13 (上) 客を迎える花嫁の母親(中央)と友人。(下) 客の宴席。(ハミ2004)。

花嫁は別室で友人たちと食事や踊りなどを踊って楽しんで(図14)。

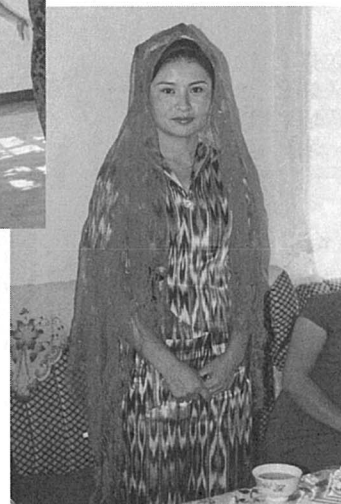


図14 実家で友人と過ごす花嫁(ハミ2004)。

花嫁は25歳、医師で夫婦ともウルムチ市で住むという。ウイグル女性の結婚年齢は20歳前後であるが、この花嫁は大学卒業者であることから結婚が遅くなっている。故郷のハミでの花嫁衣裳はアトラスのスーツで行い、ウルムチ市では白のウエディングドレスを着るという。アトラスのスーツは上質な仕立てであることが一見してわかるもので、花嫁にぴったり合っていた。夫婦はウルムチ市で働くためにハミではレストランを夫の家に見立てて式を行うという。金糸を多く用いた長枕、クッション、座布団などのきらびやかで伝統を重んじた寝具一式が部屋の隅で披露されていた(図15)。



図15 嫁入り道具(寝具一式)(ハミ2004)。

(2) 結婚の贈り物

花嫁より少し早く結婚式場になるレストランに赴くと、すでに結納品で購入された花嫁の嫁入りスーツケースが届いていた。スーツケースの中味は、布数種類、靴、鏡、化粧品、装身具などである(図16)。

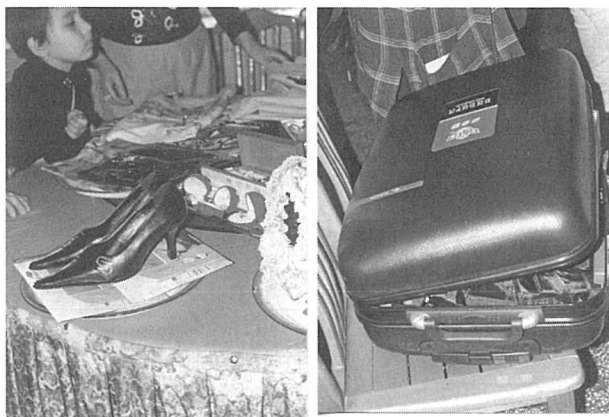


図16 夫からの結婚の贈り物(一部)(ハミ2004)。

装身具は、時計、指輪、ネックレス、イヤリングなどで全て金製品である(図17)。



図17 夫から贈られた貴金属類(ハミ2004)。

「金のワンセット」と称されるウイグルの伝統が、ハミの花嫁道具の中にも確認され、現代女性にも受け継がれている。「金のワンセット」とは金製ネックレス、金製ピアス、金製指輪などで、ウイグル女性が伝統的に身につけている装身具をいう。

(3) 結婚式の状況

式典の会場になるレストランの隅の方にアホンが数名出席しているが、他は女性ばかりの客がレストランで待っている。突然、民族楽器の大きな演奏音が聞こえる。見ると、寝具などを積んだ車に演奏団も乗っている(図18上)。後に花嫁を乗せた自動車が続いて到着する(図18下)。

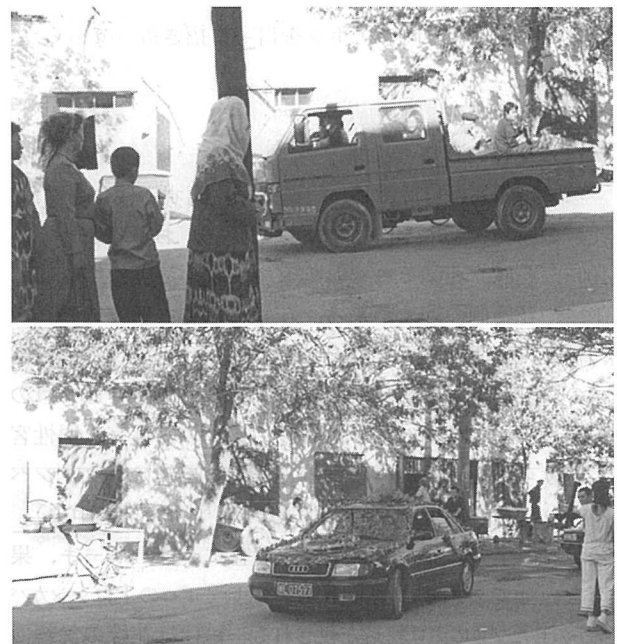


図18 花嫁の車を先導する音楽団の車(上)、花嫁の車(下)(ハミ2004)。

まず最初にベールを被った花嫁が車から降りる。姑が車の所まで迎えに行く。花嫁の右に友人、左に姑に付き添われて花嫁が式場に入る (図19)。



図19 会場に到着した花嫁、花嫁の右に友人、左に姑 (ハミ2004)。

式場は大きなテーブルを皆で囲むような設定である。まず花嫁側の代表の女性が詩を朗々と朗読する (図20左)。その内容は花嫁がいかに素晴らしい女性であるかを歌っている (この子が結婚相手に選ばれたことを神様に感謝します。私たちは娘を貴方のために育ててきました。娘は人間として立派で一生懸命働きます)。婿側の代表の女性が同じように婿となる男性の素晴らしさを詩で披露する (図20右) (最も魅力的な男性です。多くの女性の中から貴方の娘を選びました。男性は頭がよく彼女を大切にするでしょう)。



図20 女性のみの式典で花嫁側 (左) と花婿側 (右) から詩の朗読をする (ハミ2004)。

結納品による結婚の贈り物を一つずつ会場に運び、出席者にみせながら中央のテーブルに置いていく (図21)。



図21 女性のみの式典において花婿からの贈物が披露される (ハミ2004)。

姑は花嫁のベールをあげ (図22左)、腕時計、指輪、ピアス等の装身具を花嫁に付けていく (図22右)。

出席者の服装は特別のものとはみられない簡素なものである。また式典も簡素である。詩を朗読する人は、親類などで上手な人が頼まれて行うという。以前ウルムチ市で結婚式に参加したが、都会では花嫁のほとんどが白の西洋式ウェディングドレス、花婿はスーツである。今回の花嫁のアトラスシルクのスーツはハミの地方性と考えられる。



図22 姑が花嫁のベールを上げる (左)。姑が花嫁に装身具を付けていく (右) (ハミ2004)。

3) その他

① シタン (ズボンの一種) の着用について

シタンの着用については祈りの準備の場面が必要であることを前述したが、その他にシタンを必要とする理由を探ってみた。

ハミの夏の気候は朝夕の寒暖の差が大きい。このことから夏でも靴下やズボン形のシタンの着用を必要とする。

もとより年齢や個人差があるが、今回訪問したハミの40歳以上の女性はワンピースの下に下着用のシタンを着用していた。

またハミ地域はタクラマカン砂漠の東にあるクムターグ砂漠の北方に位置し、砂塵防御のためにもシタンが適している。

更にウイグル族は定住生活に移行する前は遊牧民であったことが知られている。遊牧民は男女共に馬に跨って乗るためにシタンは不可欠である。今日のシタンはそのような伝統を継承しているのかもしれない。

以上ハミでの観察を通してシタンの着用を考察したが、上記の理由はハミ以外でも当てはまるものである。

②化粧・装身具について

ハミでも年配の女性を観察すると、ヘナや装身具を多く付ける習慣は行われている(図23)。小麦粉を用いた料理をつくるときでも大きな石のついた指輪をはずさない。全ての人が金製品のピアスをしていた。身体の一部として定着している。

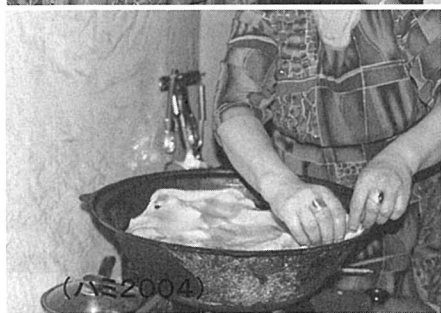


図23 ヘナと指輪 (ハミ2004)。

③子どものピアスと短髪について

図24に示すように、短髪なので男児と見まがう子どもが見受けられたが、ピアスを確認して女兒であることがわかった。髪を濃く豊かにするために学齢期前の殆どの女兒が髪を剃るほどに短くしている。



図24 女兒のピアスと短髪 (ハミ2004)。

④ハミにおける漢族の影響

ハミの特徴について、これまでウイグル族の中で漢族の影響が強い地域といわれてきた。我々の調査の中でもその影響の理由を聞くことができた。インタビューをまとめると、東方の漢族の地域に行商に出たウイグル人が、当時貧しかった漢族の子どもの養子や養女にし、長じて地元のウイグル人と結婚させたということである。我々の観察では、室内で食事が供されるとき、どの民家でも机に食物が並べられることに注目した。この机は一様に日本の座卓程度の高さの四角いテーブルである。ウイグルの絨毯敷きの部屋には高い机と椅子はなじまないが、座卓程度のものなら使用が可能である。ウルムチ市やイーニン市のような都会では、漢族と同じような脚の長い机と椅子を食堂や居間に導入している例が多くみられた。しかし一般には絨毯の上に布を敷き、周りを座布団で囲い、中央の布の上に食物が華やかに配置されるのが伝統である。以前に訪問したが、最も漢族の影響を受けている回族は、漢族と全く同じような机と椅子で土間で食事を取る。このようにみていくと、ハミの人々の座卓は丁度、伝統的なウイグル族と漢族の中間の食事形態と考えられる。

しかし服飾に関して言えば漢族の影響は特に見られない。むしろ新疆ウイグル自治区の他の地域のウイグル族の服飾と共通することが多いという調査結果であった。

以上

本稿における調査は、日本学術振興会平成16年度科学研究費補助金によるものである。基盤研究（B）（2）、課題番号15402001、研究課題名：「中国・新疆ウイグル自治区の女性と生活環境に関する総合的研究」（研究代表者：岩崎雅美）

最後になるが、本調査に関してご協力頂いたマイラ・メメティ氏（北海道大学大学院博士後期課程）、アイシャム・メメティ氏、シャディヤ・アブドレイム氏、訪問先のウイグル族の方々に深く感謝の意を表する。

注

- 1) 岩崎雅美・宮坂靖子「中国・新疆ウイグル自治区の女性と生活－その1 新疆大学の概要及び少数民族の生活」『家政学研究』第47巻第1号、2000年、pp.58～61.
- 2) 宮坂靖子・岩崎雅美「中国・新疆ウイグル自治区の女性と生活－その2 少数民族における教育と家族」『家政学研究』第47巻第1号、2000年、pp.62～67.
- 3) 岩崎雅美・勝田啓子・久保博子・瀬渡章子・中田理恵子・服部範子・宮坂靖子・村田仁代「中国・新疆ウイグル自治区の女性と生活－その3 平成12（2000）年度少数民族に関する生活調査」『家政学研究』第48巻第1号、2001年、pp.57～76.
- 4) 岩崎雅美・村田仁代「（資料）－中国・新疆ウイグル族の女性の服飾－2001年度 カシュガル及びホータン地区における調査より－」『家政学研究』第49巻第1号、2002年、pp.69～74.
- 5) 岩崎雅美・村田仁代「（資料）中国・新疆ウイグル族の女性の服飾－2002年度 イーニン地区における調査より－」『家政学研究』第50巻第1号、2003年、pp.77～84.
- 6) 岩崎雅美・村田仁代「ウイグル族女性の服飾の特徴－中国・新疆ウイグル自治区を例に－」『国際服飾学会誌』No.24、2003年、pp.63～77.
- 7) 宮坂靖子・服部範子「（研究ノート）－中国・新疆ウイグル族の女性の服飾－2001年度 カシュガル・ホータンの調査を中心に－」『家政学研究』第49巻第1号、2002年、pp.69～74.
- 8) 宮坂靖子・服部範子「（研究ノート）－中国・新疆ウイグル自治区におけるウイグル族の家族・世帯とライフコース－イーニン市におけるケーススタディー」『家政学研究』第50巻第2号、2004年、pp.163～169.
- 9) 岩崎雅美・村田仁代「（資料）中国・新疆ウイグル族の冬の衣生活－2003年度カシュガル・アトシュ地区における調査より－」『家政学研究』第51巻第1号、2004年、pp.35～43.
- 10) 岩崎雅美編『中国シルクロードの女性と生活』東方出版（株）2004.
- 11) 宮坂靖子「（研究ノート）中国・新疆ウイグル自治区における教育と育児－2003年 フィールドワークより－」『家政学研究』第51巻第2号、2005年、pp.65～71.
- 12) 『新疆統計年鑑 2001』、中国統計出版社、P.108.
- 13) 徐金発・程春・李都『無限風光在新疆』新疆青少年出版社 1999. p.423.